



「声」の欄・投稿規定

- ★「声」の欄は読者の皆さんのお考えを、直接誌面に反映させるためのページです。皮膚病の診療に関する日ごろのご意見、新しいアイデア、ご提言などをお気軽にお寄せください。とくに日夜第一線で診療に活躍しておられる先生方からのご投稿を切望します。
- ★「声」の欄には、また皮膚病に関する“質疑応答”を取り上げます。お寄せいただいたご質問は、その方面の権威に依頼して適切な回答を用意し、誌上で発表いたします。とくに回答者を指名されても結構です。
- ★字数は一般のご投稿は1,200字以内、質問は600字以内を原則とします。
- ★ご投稿は郵送のほか、FAX（番号：03-3984-1003）とE-mail（アドレス：hifubyoh-shinryoh@kk-kyowa.co.jp）にでも受け付けております。
- ★原稿には住所・氏名を明記していただきます。

指趾の粘液嚢腫の自然治癒について

1990年代、年に数例は主に手指の粘液嚢腫の切除＋植皮をしたが、2/3ぐらいは再発した。そんなこともあり、2000年以降は小切開し粘液を出し、液体窒素で鬼のようにギンギンに白く凍らせて3カ月後に来ていただき、再発していたらもう1～2回同じことをして、3～4回目は諦めていただくことにしていた。この方法で半分ぐらいは治ったであろうか？

次第にこの病気はけっこう厄介だと思うようになり、治療には消極的になっていた。この間、雑誌でフェノール法(1998年)、ミノサイクリン注入療法(2004年)、穿刺排液テーピング療法(2015年)をみた。

ところが最近、相次いで自然治癒例を経験した。ガングリオンでは自然治癒がけっこうあるようだ。自分自身も20年ほど前に左手背にガングリオンと思われる皮下小腫瘍が出現し、半年ほどで消えてなくなった経験がある。

【患者1】74歳、女。2018年4月初診。右手V指に3～4 mmの粘液嚢腫。2回穿刺したがまた腫れてくる。半年ぐらいて、本人がテープを貼っていると膨らんでこないという。その後1回穿刺した。テープ圧迫療法

を続けて平坦化したが、消えはしなかった。初診から2年半後に、本人が発酵させた朝鮮人参を粘液嚢腫に塗ったら消えたという。

【患者2】64歳、女。2019年7月初診。左手II指爪郭部に数mmの粘液嚢腫、ときどき痛くなる。穿刺2回。10カ月後に少し膨らんできたが放置で様子を見たら、1年4カ月後に消えていた。

【患者3】54歳、女。2018年6月初診。左手III指背に5 mmの粘液嚢腫。表面に角化あり、初診時に削ったら粘液が出た。その後はとくに治療しなかったが、2年半後の来院時に消えていた。自然に治ったようだ。

私はこれまで粘液嚢腫の自然治癒はあまりみたことがなかった。皮膚科の教科書や大系、爪の専門書に粘液嚢腫の自然治癒の記載はなく、皮膚外科の2つの本(皮膚外科学、皮膚外科基本テキスト)には「自然消褪することもある」と書いてある。

本症を多数経験されている先生方に、自然治癒がどのくらいあるのかを教えてください。今回の3例は中高年の女性だが、自然治癒しやすい年齢、性、部位、状態などがあるのかについてもお聞きしたい。

角田 孝彦
(山形市立病院済生館皮膚科)